



人と人をつなぐ、
あなたの
ベストパートナーで
ありたい。

株主通信

2015年3月期第2四半期
2014年4月1日～2014年9月30日

IK 稲畑産業株式会社



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2014年4月1日から同9月30日における事業の概況をご報告させていただきます。

当第2四半期連結累計期間の概況について

当社グループの連結ベースでの売上高は、277,707百万円(対前年同期比0.1%増)となりました。利益面では、営業利益5,124百万円(対前年同期比10.3%減)、経常利益6,907百万円(対前年同期比5.1%増)、四半期純利益5,086百万円(対前年同期比11.5%増)となりました。

配当等の方針の変更について

株主の皆様への利益還元を一層重視し、明確な形で実施していく観点から、2015年3月期より配当政策等の基本方針を変更いたしました。

具体的には、これまで配当性向を基準とし、20~30%程度をその目安としておりましたものを、配当金額に加え自社株式取得金額を考慮した総還元性向*を新たな基準とし、30~35%程度をその目安とすることといたしました。

*総還元性向(%)=(配当金額+自己株式取得額)÷連結純利益×100

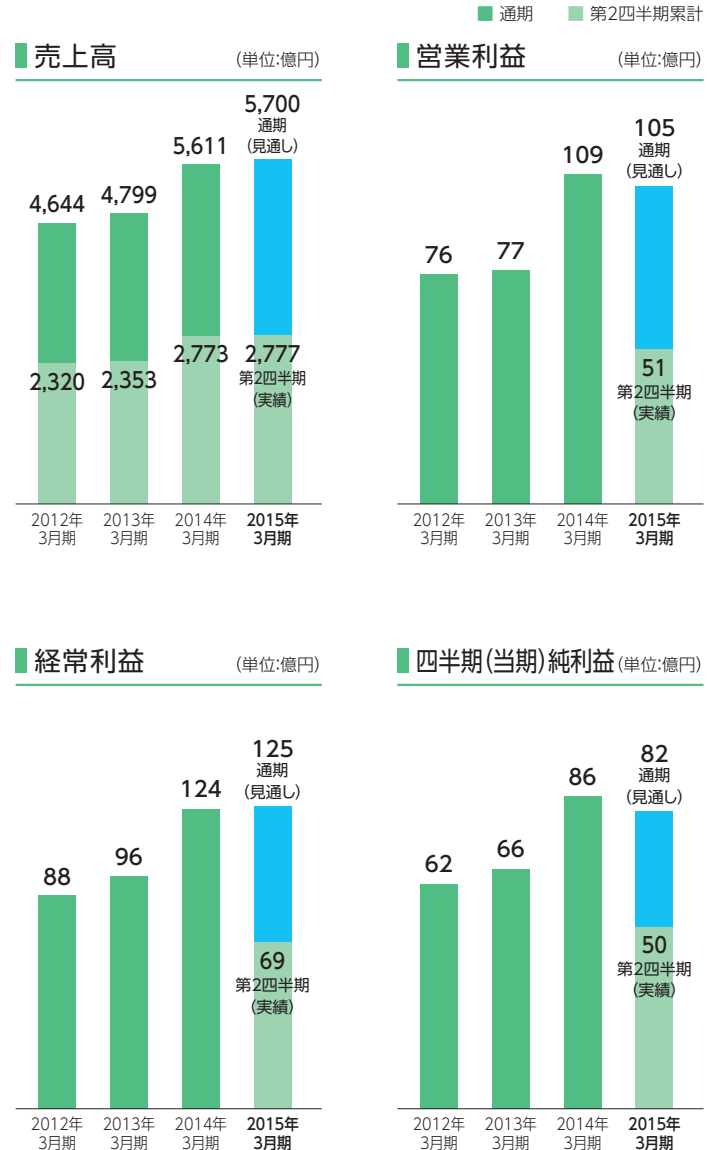
配当について

当期の中間配当金につきましては、当初の予想のとおり、1株当たり15円とさせていただきます。期末配当につきましては、1株当たり15円(中間配当とあわせて年間30円)を予定しております。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

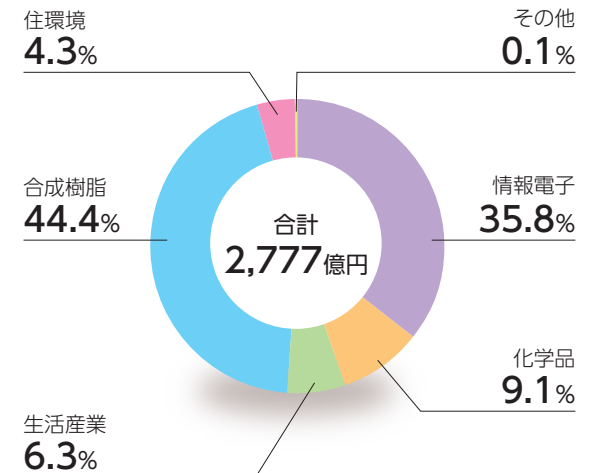
2014年11月

代表取締役社長 稲畑勝彦

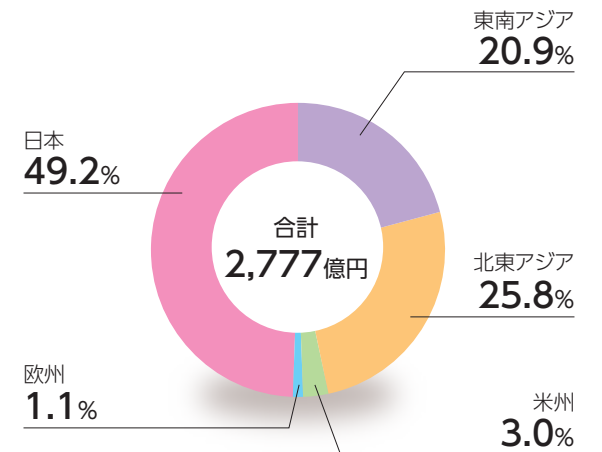


(注)2013年3月期及び2014年3月期第2四半期実績は、会計方針の変更に伴う遡及修正後の数値を記載しております。

事業区分別売上高構成比 (2014年4月1日~9月30日)



所在地別売上高構成比 (2014年4月1日~9月30日)



幅広くお客様をサポート

情報電子事業は、今や当社の売上の4割近くを占める主力事業の一つです。当社は世界の市場で、各種素材・機械装置の販売から加工や物流管理まで、幅広くお客様をサポートできる体制を整えています。

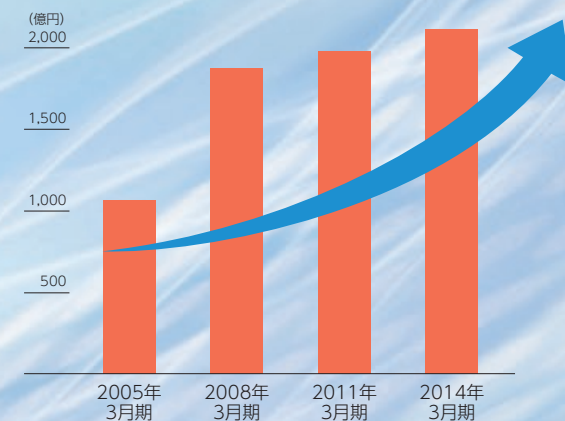
当社の情報電子事業のルーツ

当社は、1890年に染料の輸入販売で創業しました。意外にも現在の情報電子ビジネスは、当社が創業以来築き上げてきた染料マーケットでのビジネスと無縁ではありません。

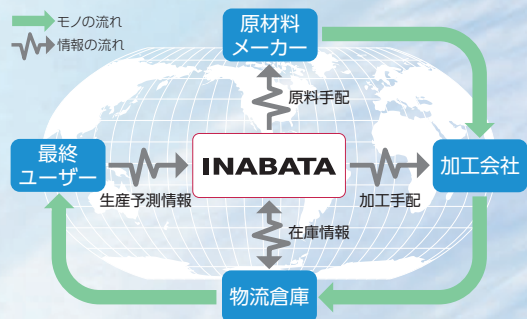
一例では、繊維用が主体であった染料・顔料のビジネスは、発展して複写機やプリンターなどのトナーやインキのビジネスにつながっています。また染色や製紙などの分野で助剤として長年取り扱ってきたポリビニルアルコールは、液晶ディスプレイの重要な材料の一つとなっています。

1990年代までは、こういった各種商材は化学品部門を中心に複数の部署で扱っていましたが、1999年4月、営業部門をより市場重点型に再編、新たに設置した情報電子本部に集約しました。これにより急速に拡大する同市場を重点分野として注力する体制となりました。

情報電子事業の売上推移



VMI 商社ならではの機能でお客様のニーズに応える



世界の各地でビジネスを展開するお客様のニーズに、当社のネットワークと調達に関するノウハウをいかした“VMI”でお応えしています。

※VMI (Vendor Management Inventory) とは？
 サプライヤー(当社)が顧客に代わって顧客の在庫レベルの管理・補給を行う仕組みのこと。
 顧客の生産情報などをもとに、当社はIT機能を駆使し、世界各地の仕入先、物流拠点をコーディネート、最適なタイミングで最適な量の原料・資材を顧客にお届けします。

情報電子事業は大きくわけて3つの分野でビジネスを展開

フラットパネルディスプレイ、LED関連

フラットパネルディスプレイ (FPD) 分野では、偏光フィルムやバックライトなど各種材料および原料、製造装置を扱っています。先に述べましたポリビニルアルコールは偏光フィルムの原料の一つです。

また、LED分野では、封止材や特殊テープの原料などを取り扱い、内外の幅広いお客様にサービスを提供しています。

複写機、プリンター関連

複写機やレーザープリンター向けには、トナーに使用される顔料やバインダー樹脂・添加剤などの原材料を販売しています。インクジェットプリンター向けには、インクカートリッジに使用される色材やさまざまな添加剤、フィルムなどの各種部材を販売しています。

電池、半導体関連

半導体業界向けには、原料素材から製造過程で使用される材料、製造装置や検査装置、製品にいたるまで、あらゆる工程で高い専門性を駆使したソリューションを提供しています。また、太陽電池・二次電池の分野では、材料販売だけでなく、リチウムイオン電池の試作評価という市場のニーズにマッチしたビジネスも行っています。

「チャレンジスピリットを持ち続けます。」

当社の情報電子事業は、いずれの分野も大部分の販売先が海外になっており、海外各拠点との連携がとても大切なポイントです。また、変化の激しい業界ですが、その反面、変化が大きいということは商社にとってチャンスであり、よく考え、迅速に行動することが次のビジネスへ繋がります。「現場に強い稲畑産業」の強みを最大限に発揮していきます。常に未知の分野にチャレンジするスピリットを持ち続けたいと思っています。



取締役常務執行役員
赤尾 豊弘

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末 2014年3月31日現在	当第2四半期連結会計期間末 2014年9月30日現在	増減額
流動資産	214,659	219,767	5,108
固定資産	90,378	83,736	△ 6,641
資産合計	305,037	303,504	△ 1,532
流動負債	155,076	152,112	△ 2,963
固定負債	34,080	34,725	645
負債合計	189,156	186,838	△ 2,318
純資産合計	115,881	116,666	785
負債純資産合計	305,037	303,504	△ 1,532

Point 1 流動資産の増加

受取手形及び売掛金が増加した等のため、5,108百万円増加しました。

Point 2 固定資産の減少

時価の下落により投資有価証券が減少した等のため、6,641百万円減少しました。

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期連結累計期間 2013年4月1日～ 2013年9月30日	当第2四半期連結累計期間 2014年4月1日～ 2014年9月30日	増減額
売上高	277,370	277,707	337
売上総利益	18,945	18,853	△ 91
販売費及び一般管理費	13,232	13,729	496
営業利益	5,712	5,124	△ 588
営業外損益	860	1,783	922
経常利益	6,573	6,907	334
特別損益	243	247	3
四半期純利益	4,562	5,086	524

Point 3 営業利益の減少

販売費及び一般管理費が増加した等のため、588百万円減少しました。

Point 4 経常利益の増加

受取配当金が増加した等のため、334百万円増加しました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期連結累計期間 2013年4月1日～ 2013年9月30日	当第2四半期連結累計期間 2014年4月1日～ 2014年9月30日	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,476	4,607	10,083
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,173	△724	2,448
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,231	△8,521	△11,752
現金及び現金同等物に係る換算差額	390	518	128
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,028	△4,120	908
現金及び現金同等物の期首残高	18,985	18,402	△582
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	210	210
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	1,143	-	△1,143
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,100	14,492	△607

(注)前第2四半期連結累計期間は、会計方針の変更に伴う遡及修正後の数値を記載しております。

Point 5 営業活動によるキャッシュ・フローの増加

売上債権の減少、たな卸資産の減少等のため、10,083百万円増加しました。

Point 6 財務活動によるキャッシュ・フローの減少

短期借入金の減少等のため、11,752百万円減少しました。

会社情報 / 株式情報

Corporate Information / Stock Information

会社概要

(2014年9月30日現在)

会社名	稲畑産業株式会社
創業年月日	1890年10月1日
設立年月日	1918年6月10日
資本金	93億6千4百万円
従業員数	599名(グループ会社への出向者を含む) [連結3,586名]
大阪本社	大阪市中央区南船場一丁目15番14号
東京本社	東京都中央区日本橋本町二丁目8番2号
名古屋支店	名古屋市中村区名駅三丁目22番8号
営業所	松本営業所、九州営業所(霧島市)

役員

(2014年9月30日現在)

代表取締役社長 執行役員 代表取締役 専務執行役員	稲畑 勝太郎	常勤監査役	上 杉 隆
代表取締役 専務執行役員	大槻 延広	監査役	鈴木 修一
代表取締役 専務執行役員	西村 修	監査役	松山 康二
取締役 常務執行役員	菅沼 利之	監査役	高橋 慶孝
取締役 常務執行役員	赤尾 豊弘	執行役員	望月 卓
取締役 常務執行役員	横田 健一	執行役員	杉山 勝浩
取締役 常務執行役員	佐藤 友彦	執行役員	小田 吉哉
取締役	福林 憲二郎	執行役員	安江 範臣
取締役	高萩 光紀	執行役員	大橋 基雄
取締役相談役	稲畑 勝雄	執行役員	幡本 裕之

(注) 1. 取締役 福林 憲二郎及び高萩 光紀は、社外取締役であります。
2. 監査役 鈴木 修一、松山 康二及び高橋 慶孝は、社外監査役であります。

株式情報

(2014年9月30日現在)

[発行可能株式総数]	普通株式	200,000,000株
[発行済株式の総数]	普通株式	63,499,227株
[株主数]		4,557名

[大株主の状況](上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
住友化学株式会社	13,836	22.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,069	4.9
JP MORGAN CHASE BANK 385093	2,601	4.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,489	4.0
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	1,736	2.8
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,276	2.0
稲畑 勝雄	1,159	1.8
株式会社みずほ銀行	1,114	1.8
丸石化学株式会社	961	1.5
あすか製菓株式会社	785	1.2

(注)当社保有の自己株式数(609,631株)につきましては、持株比率の計算より除いております。

<http://www.inabata.co.jp>

稲畑産業 投資家 検索

当社WEBサイト「投資家向け情報のページ」へ是非お越し下さい。

お知らせ 当社は、12月16日・17日「野村IR個人投資家フェア2014」(場所:東京国際フォーラム、主催:野村インバスター・リレーションズ(株))に出展いたします。



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
その他必要がある時は、あらかじめ公告して定めます。
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 公告の方法 電子公告 当社のホームページに掲載します。
<http://www.inabata.co.jp/koukoku>
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第1部
- 証券コード 8098
- 単元株式数 100株
- 会計監査人 大阪市中央区瓦町三丁目6番5号
銀泉備後町ビル 有限責任 あずさ監査法人
- 株主名簿管理人及び特別口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031
(ホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。

【特別口座について】

株券電子化前にほぶり(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。

Topics 新拠点稼働

■ベトナム

Apple Film Da Nang Co., Ltd.

(ポリエチレンフィルム製造)

当社グループのApple Filmは、タイにて1990年からレジ袋などのポリエチレンフィルム製品を製造しています。供給体制のいっそうの充実をめざし、ベトナム中部地方最大の都市ダナンにて新たな製造拠点を設立、このほど営業を開始いたしました。主に日本市場向け汎用製品を製造します。



■フィリピン

IK Plastic Compound Phils. Inc.

(樹脂コンパウンド製造)

フィリピンにて建設中であった新たな樹脂コンパウンド製造拠点が、2014年8月から稼働いたしました。主にOA分野向けに各種樹脂コンパウンドを生産・販売します。

当社の樹脂コンパウンド拠点は7カ国8社、生産能力は年産20万トン超になります。

